# 三股町教育研究所

I	研究主題及び副題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-6-1
П	主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-6-1
Ш	研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-6-1
IV	研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-6-1
V	研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-6-2
-	研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
-	研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

# I 研究主題及び副題

みまたん子の学力を伸ばす学習指導等の研究 ~小中連携を大切にした基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を通して~

#### Ⅱ 主題設定の理由

「ゆとり教育」「新しい学力観」「生きる力」と、子どもたちに身に付けさせたい学力観は変遷してきた。それは、時代が変わり、その時代の社会の抱える問題や子どもたちの実態が変わってきたからである。急激な時代の変化に加え、東日本大震災も起こった。これから、さらに変化は進み、どのような時代が来ても「生きる力」を身に付けさせなくてはならないと言われている。そのような中、新学習指導要領が、小、中、高等学校で全面実施となった。21世紀は「知識基盤社会」と言われ、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが求められている。「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」という確かな学力についての基本的な考え方が学校現場には浸透した。本県においては「第二次宮崎県教育振興基本計画」が平成23年度から32年度の10年間の計画として策定され、少子高齢化、人口減少時代の到来、国際化・グローバル化等の社会情勢の中で、「未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の人づくり」を目指している。

「文教みまた」と言われてきた三股町は、昔から教育熱心で幾多の人材を生んだ誇り高い土地柄であり、経済的な困難にもめげることなく教育に力を注ぐ教育尊重の気風がある。子どもたちのほとんどは、町内6小学校から三股中学校へ進学する。そのため、小中一貫した教育が進めやすい環境にあり、平成22年度には児童生徒自ら「児童生徒憲章」を策定し、共通実践として「校門での一礼」「黙想座礼」「無言清掃」「郷土学習」などの「伝統教育」を行ってきている。また、「教育の情報化」を推進し、教科指導におけるICTの活用、情報教育、校務の情報化に取り組み、学校教育の質の向上を図ってきている。しかしながら、学力向上に関する共通実践や学校間の連携については、継続して取り組んでいるとは言えない状況にある。みやざき小中学校学習状況調査では、町内の小中学校全教科の平均が県平均より低い状況にある。また、教師は、基礎的・基本的な内容の定着に課題があると感じている。家庭学習や保護者の協力に関しては、それぞれの学校や学級において良い取組がなされているものの、共通理解、共通実践するには至っていない。このような状況を考えると、学力向上の手立てを工夫改善していく必要がある。

そこで、三股町では、県教育委員会から「宮崎の子どもの学力を伸ばす総合推進事業」の基礎学力定着指導実践推進地域の指定を受け、町内6つの小学校と1つの中学校で連携して実践的な研究を進めていくこととなった。3年計画で、小・中学校間の連携や共通実践を行いながら、基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図るための、学習指導の工夫、家庭との連携による指導等の実践的研究を行うこととした。

昨年度は授業や家庭学習に関する児童・教師・保護者の実態調査や分析をもとに本研究に関する 課題を明らかにし、学習規律の整理、授業モデルの作成、家庭学習の手引きの作成と配付を行った。 町内で行われる夏季・秋季研修会や拡大研究推進委員会等の場で研究内容や研究の進め方について 確認をしながら、町内の教職員への啓発を図り、共通実践をもとにした研究を進めてきた。

平成27年度は、町内7校の主題研究の研究主題を町内統一したものにし、さらなる研究の活性化を図っていく。昨年度までの共通実践事項を土台にしながら学校の規模や実態に応じた研究を行い学力の向上を目指していく。学習内容の定着や学習習慣の形成のために、小中9年間の系統性を意識した指導を行うようにする。このような児童生徒の学力向上に向けた実践と実践成果の普及のために本主題を設定し研究を進めることにした。このことは、町教育基本方針の「未来を創る心豊かで活気あふれる文教みまたの人づくり」につながるものであり、大変意義がある。

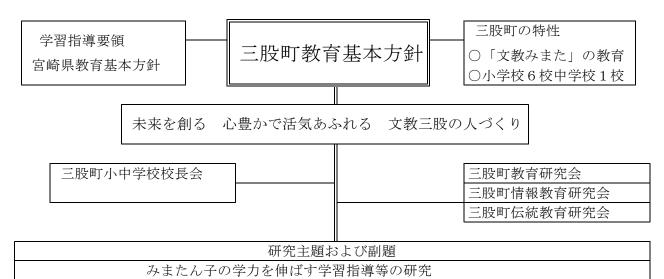
#### Ⅲ 研究目標

三股町の小・中学校における、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図る 指導の在り方についての実践研究を行い、児童生徒の学力向上を図る。

#### IV 研究仮説

三股町の小・中学校において、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図るための、学習指導及び教育課程の工夫、家庭との連携による指導等を行えば、学力が向上するであるう。

# V 研究の全体構想



#### \_\_\_\_\_ 研究目標

~小中連携を大切にした基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を通して~

三股町の小・中学校における、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図る 指導の在り方についての実践研究を行い、児童生徒の学力向上を図る

# 研究で目指す学校像・教師像・児童生徒像

- 学校間の連携を図りながら、確実な共通実践を教育活動において展開しようとする学校
- 小・中学校の連携を大切に、基礎的・基本的な内容の定着や学習習慣の形成を図るための実践 的な研究と計画的な取組を行おうとする教師
- 望ましい学習習慣と基礎学力を身に付けた児童生徒

#### 研究仮説

三股町の小・中学校において、児童生徒の基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を図るための、学習指導及び教育課程の工夫、家庭との連携による指導等を行えば、学力が向上するであるう。

研究内容						
	学習指導等研究班	学習習慣形成研究班				
平成27年度	・実態調査の実施と分析	・ アンケートの実施と分析				
	・ 授業モデルの推進	・ 家庭学習の充実				
	・ 学習規律の徹底	・ 読書活動の充実				
	・授業評価	・ 教育課程の工夫				

町内7校の主題研究(平成27・28年度)

#### VI 研究内容

# 1 学習指導等研究班

本研究は、三股町内の児童生徒の学力を向上させることを目的として、昨年度から3ヶ年で取 り組んでいる。昨年度は、三股町内の全児童生徒、全教職員に授業に関する実態調査や意識調査 を行い、その結果を基にして分析と考察を行った。

その分析結果から、学力を向上させるためには、「1単位時間の授業モデルの作成」と「学習 規律の徹底を授業の中で行うこと」が重要であると判断し、本研究班の研究内容の中心として位 置付けた。

# みまたんモデル(1単位時間の授業モデル)

#### 基本的な考え方

三股町内の児童生徒の学力を向上させるために、ひむか3か条を基にした授業モデルを作 成した。この授業モデルを町内全ての学校で実践することが、日々の授業の充実につながり、 確実に学力を向上させるだろうと考えた。また、今年度から三股町の全ての小・中学校で取 り組んでいるという独自性を強めるために、名称を「みまたんモデル」と変更した。

# イ 夏季研修会

この「みまたんモデル」を計画的に活用することが、日々の授業の充実になり、児童生徒 の学力を向上させることにつながることを目的としている。

この「みまたんモデル」が、三股町内の教員によく理解され、さらに実践につなげてもら うために夏季研修会(三股町内の全教職員が集まる)で次の3点について確認をした。

- ① 日々の授業で積極的に実践(例、)、⑤を意識しながら)
- ② みまたんモデルは進化形(今後、さらにバージョンアップ)
- ③ 学習指導案形式の統一(町内7校で共通理解・共通実践)

2学期からの日々の実践の結果、 ある学校からモデルの見直しの案が 出された。また、それ以外の内容や 授業で心がけたいことなども、再度 見直しを行った。このようなことを 行って、「みまたんモデル」は新た なバージョン

- より学力向上につながる
- より教員が使いやすい

にレベルアップした。【資料1】

# ウ 秋季研修会

11月に勝岡小学校で、「みまたん モデル」を基にした授業研修会を実 施した。この研修会には、三股町内 の各小・中学校の全職員が参加した。 研究授業は、国語科【写真1】、算 数科、社会科、理科の4教科で行い、 参観者はそれぞれの教科ごとに分か れた。その際、各教科ごとに指導案 と「みまたんモデル」を基にした視 点表を作成し、授業を参観した。

その後、参観した各教科ごとに分 かれて、「みまたんモデル」の有用 性や有効な実践方法、課題などにつ いて協議を行った。【写真2】

#### みまたん子の学力向上は、日々の授業の充実から

三股町では、各小・中学校の児童生徒の学力を向上させるために、『みまたんモデル』という提 **現モデルを作成した** 

# 《み》 見通しをもたせるめあての提示

児童生性の実験を考慮し、学習の見通しをもたせやすい「改多 TI を終定することは、児童生徒に学習のイメージや目的意識をもたせることができるので、主体的な学習につながります。
 見通しをもたせる際には、「改多で」から「まとの」まで一貫性のある授業を意識する必要があります。本時の学習内容や検証事業を参照した影でとうえることは、何を指導し、評価するのかを明確にできるので、基礎的・基本的な内容の定着につながります。

#### **(\***)| 学び合いで考えに深まりを

- 自分の考えを記述したり、伝え方を工夫したりする自力解決の時間を確認することが、学が 合いで児童主他の理解や服务を承めたり、表現する力を高めたりすることにつながります。 飯道や根拠を明らかにしたペアやグループ、学規全体での学び合いを行うことが、児童主徒 の意見や考えをより深めることにつながります。 何を1、「何のために学び合うのか」といった目的意識を高めたり、「どのように学び合うのか」といった方法を確認したりすることが、児童主徒の学習意識や課題解決をする力を高 めることにつながります。

# 《た》 確かめることで学習内容の定着を

- 本時の学習が連成されたかどうか、練習問題等で確認することは、児童生徒の学習内容の理
- ・ 本代の子ものを見ないにいたとか、時間は最後である。ことは、元皇上にの子自 を が定着を把握することになり、その数の指導に生かすことができます。 学習のあしまとが残るような概書・ノートにすることは、 ① 児童士能が学習の確認や振り返りをしやすくし、本時の学がを明らかにすること ② 常見学習に活用することができ、学習内容をさらに定着すること につながります。

#### 授業で心がけたいこと

# → 「見通しをもたせるめあての提示】

- D 前時の残害などを選して、本理学者の影響事項を輸送 D 児童色をの美観に応じためまて「学者問題」を示す。
- 素 [準が合いで考えに承まりを]
  - □ 自分の考えを書く、理由や根拠をもとに終す、比較しながら聞く、伝え方を工夫するなどの直接を敷き充実させる。
    □ 学び合いの目的や方法を確認し、学習内容の解決を支援する。

# た「確かめることで学習内容の定着を】

学習内容のねらいが進念できたか、揉留問題などで連起し、理解が干十分な点は再 ・皮持衛を行う。 D 板書やノートをもとに、学番的客や学び方について探り返る場面を設定する。

【資料1 みまたんモデル】



【写真1 国語科の授業の様子】



【写真2 算数科の分科会の様子】

◎ 実際の授業の様子(社会科)

【単元名 アジア・太平洋に広がる戦争】

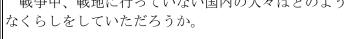
(本時 戦争と子どもや女性たち 戦争体験者の聞き取りをする)

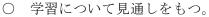
《見通しをもたせるめあての提示を》

通 ○ 本時学習をつかむ。

- す ・ 既習事項、戦争当時の資料を確認や比較をさせな がら本時のめあてにつなげていく。
  - 本時のめあて

戦争中、戦地に行っていない国内の人々はどのよう





子ども、女性、学生のくらしについて調べることを確認させる。



【写真3 資料を提示している様子】

# (ま) 《学び合いで考えに深まりを》

な ○ 個人で調べる。

てド

- 映像資料、教科書、資料集を使って戦争中の子ど もや女性、学生のくらしについて調べさせる。
- Ś ○ ペア・グループで学び合う。
  - 自分で考えたことをレベルアップさせるための学 び合いとなるように、根拠を示しながら深めさせる。
  - 全体で確認する。
    - 戦争によってどのような被害が及んだのか、資料 から分かったことや考えたことから確認させる。



【写真4 学び合いで深めている様子】

# 《確かめることで学習内容の定着を》

○ 本時の学習についてまとめる。

カュ  $\otimes$ る

L

合

戦時中は、国内の生活もすべてが戦争にかかわるも のになり、子どもや女性、学生も大変なくらしを送ら なければならなかった。

○ 本時の学習の感想を書く。

資料から分かったことだけでなく、自分自身が どのように感じたかを考えさせることで、より多面【写真5 まとめを発表する様子】 的に戦争が人々の生活に与えた影響の大きさについて考えさせ、次時につなげる。



# (2) 学習規律

# ア 基本的な考え方

学習活動を成立させるためには、その基盤となる学習規律を徹底させることが重要である。そこで、これまでの本研究所の取組を振り返り、学習規律を次のように定義づけた。

学習規律とは、学習活動を成立させるために児童生徒が、個人または学校や学級の 集団として守るべき大切な「きまり」

三股町では、過去に研究所や伝統教育部会等から、町全体として学習規律に関するいくつかの提案をしている。

その町全体で取り組んでいる内容は、「授業の始まりには黙想・座礼をする」「無言清掃をする」などがある。それらの取組を学力向上の視点で再度見直し、右のような「みまたん子授業の約束」【資料2】として学習規律を整理し、町内全ての学校で取り組むことにした。

# イ 夏季研修会

「みまたん子 授業の約束」が、確実に各「 学校の実践につなげるために、夏季研修会で 次の4つの提案と確認をした。

# Atthe Unterdotes

# じゅぎょうのまえ

#### じゅぎょうのはじまり

② ちゃくせき・もくそう・ざれいをきちんとしましょう。

# しせい

- ③ つくえとからだのあいだは、にぎりこぶし1つぶんくらいのあいだをとり、せすじをのばしてすわりましょう。
- ④ あしのうらをゆかにつけましょう。

#### へんじ

⑤ なまえをよばれたら、おおきなこえで「はい」 とへんじをしましょう。

#### はなしのききかた

- ⑥ はなしをするひとのめをみてききましょう
- ⑦ だまってさいごまでききましょう。
- ⑧ うなずくなどしてはなしをききましょう。

#### はなしかた

- ① 「~です」「~ます」などさいごまで、 はっきりとはなしましょう。

#### ノート

- ① もじをていねいにかきましょう。
- ① 「めあて」と「まとめ」をしっかりかきましょう
- ③ じぶんのかんがえのあとをのこしましょう。

#### じゅぎょうのおわり

(4) ざれいをきちんとしましょう。



平成26年度三股町教育研究所作品

【資料 2 小学校下学年用の授業の約束】

- ① 拡大印刷、教室・校内掲示の推進(各学校の実態に応じて)
- ② 今日の「めあて」に位置付け(積極的に活用していく)
- ③ 各学校の重点目標、○○強化月間の設定(教務部、学習部との連携)
- ④ 校内放送での呼びかけ(朝の時間、給食の時間のどちらでも)

# ウ 秋季研修会

11月に勝岡小学校で実施した秋季研修会の分科会2では、夏季研修会で提案した学習規律の取組が各学校でどのような状況であるかを確認したり、効果的な手立てや課題などを話し合ったりした。その分科会の後、次のような感想があった。

- 各学校の取組の状況がわかり、刺激になった。
- 本校での課題が明確になった。
- 他校の取組の中で、本校でも実施可能なものがあった。
- それぞれの学校で「授業の約束」を基にした取組がなされていることが分かった。
- 今後も、今回のような合同研修会の場を増やしてほしい。会が多い方が、小・中連携の意識が高まるし、徹底もできると思われる。
- 小・中学校で足並みをそろえることは、段階的に難しいのではないか。
- 各学校での取り組み方が異なっていたので、共通実践の内容は確実に伝達したり、確認したりしてほしい。
- 取り組む内容が多いと感じる。あれも、これも取り組むのは難しい。
- 年度途中からやらなければならないことが増えていくと、徹底できない。新たな提案は、 4月スタートでお願いしたい。

#### (3) 授業評価

# ア 基本的な考え方

学習指導等研究班では、児童生徒の学力を向上させるために「みまたんモデル」と「学習規律の徹底」に取り組むことにした。しかし、この取組がどの程度教員の実践につながっているのか、また、授業を受けている児童生徒はどのように感じているのかを定期的に確認する必要があると考えた。

そこで、これらの取組を確認する手立 てとして「授業評価」【資料3】を取り 入れ、教員の授業改善、ひいては指導力 向上につなげていきたいと考えた。

# イ 実施方法

- ① 学期末に担当している学級の全児童生徒を対象として「授業に関するアンケート」 【資料3】を実施する。
- ② 教員も同じアンケートを実施する。
- ③ アンケート結果を担任が集計する。
- ④ 集計した結果を2~4人ぐらいの教員で 持ち寄り、児童生徒の結果と自分自身の結 果についてお互いに確認をする。
- ⑤ 自分自身の授業改善につなげていく。

# 授業に関するアンケート 〔4・5・6年、中学生用〕

( )年( )推 右前(

このアンケートは、おなさんが、警段の授業を、どのように感じているか、授業にどのような 意識で取り担心でいるかを調査するものです。 労生力とおなさんとで、今後、さらによい授業 をつくりまけていくために、真 剣な気持ちで答えてください。なお、求績には一 切関係しま せんので、素度な気持ちで答えてください。

樱ź	<b>見についての質問</b>	69 <b>8</b> 9	266527 256383		そう思わか
(D)	授業では、目標(めあて)とまとめが示されていま		ALC JE J	C) 8011	
_	the structure of the st				
2	授業では、学び合いを行うための自力解決(自分で				
	考える〉の時間がありますか。				
3	授業では、ペアやグループなどでの、学が合い活動				
	が行われていますか。				
Ø)	授業の終わりに、学習内容について横り返る時間が				
	ありますか。				
න	<b>授業で学</b> んだことが、家庭学習で獲習できるノート				
	になっていますか。				
自分	<del>?</del> 自身についての質問	81128	∌L A=104	821	8029
_			817226	80126th	
a)					
(2)	ている。 授業的の推選、もくそう、されいをしっかり行って				
(2)	1950年前の推進、もくそう、されいをしっかり行って   いる。				
(3)	いる。 - との授業でも、正しいしせい(せまじをのぼす、足				
~	うらをゆかにつける〉で取りんでいる。				
<b>@</b> )	どの授業でも、各前をよばれたら大きな声で「はい」				
_	と選挙をしている。				
3	節を開くときは、節をする人の力を見て、うなずい				
	たり、あいづちをかったりして閉いている。				
6	発表するときは、おんなに閉こえる声で、最後まで				
	はっきりと辞している。				
Ø	ノートやワークシートに、「めあて」と「まとめ」				
	を書いている。				
ڑ	授業中、必要におうじて、第生の説明や友達の発言				
	をメモしている。				
®	書くとき は、文字をていねいに書いている。				
		l	I	l	

【資料3 授業評価(4.5.6年生、中学生用)】

# 2 学習習慣形成研究班

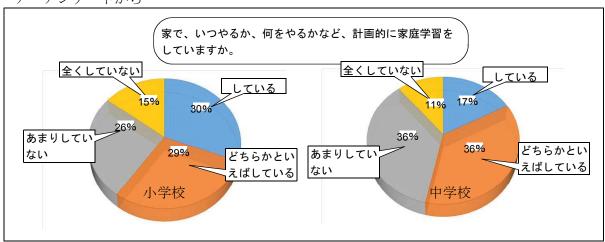
# (1) 家庭学習の充実

これまでの全国学力・学習状況調査における国の分析結果では、「家庭学習をしている児童生徒ほど国語、算数・数学とも正答率が高い傾向がある」とされている。家庭と学校とが「家庭学習を大切にする」という同じ視点に立って子どもたちを支えていくことで、学習習慣の確立が促され、学力向上につながると考える。

また、全国学力・学習状況調査のアンケートにおいて「自分で計画を立てて勉強している」 と回答した子どもほど、国語、算数・数学とも正答率が高い傾向がある。そこで、児童生徒が 内容を整理し、計画的に家庭学習に取り組む力もつけていく必要がある。

本研究班では、家庭における学習習慣の確立にとどまらず、計画的に家庭学習に取り組ませることもねらい、本町の児童生徒の学力向上を目指すこととした。

# ア アンケートから



昨年と比較しても、割合はさほど変化していない。自主的な学習の大切さの周知が十分ではないと言うことができる。詳細まで見ていくと、小学校は、学年が上がるにつれて計画的に学習に取り組んでいると答える割合が高い。低学年の間は宿題中心で、自主学習などに取り組んでいないためだと考えられる。また、中学校において自主的な学習をしていると答える割合が下がる要因として部活動による時間の制約や、別の問いから分かるメディア機器の使用頻度の増加、テレビ視聴の時間の増加があるのではないかと考えられる。

以上の結果から、家庭学習の手引きを配付するだけでは、自主的な実践にまでは広がらないことが分かった。家庭学習を計画的に行うためには、段階に合わせて、学校において指導していくべきであることも分かった。

また、家庭学習を充実させるために、家庭での時間が有効に使われているかなど、1日の生活時間を振り返らせる必要がある。特に中学生においては、メディア機器の使用の制限やテレビ視聴の時間を減少させることにより、自主的な学習時間を生み出すといった取組も今後、必要である。

# イ 家庭学習の手引きの共通実践のために

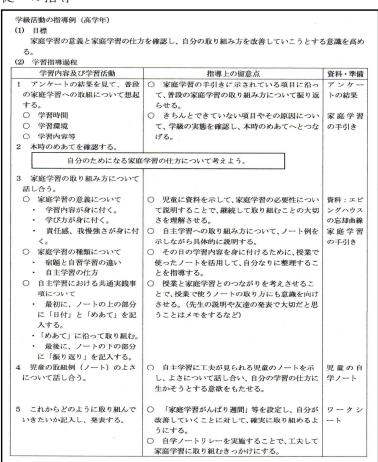
家庭学習を家庭と学校が共通理解して進められるように昨年度、家庭学習の手引きを研究 所が作成し、町内の全家庭に配付している。今年度は、さらに共通理解・共通実践を推進す るため、次のような取組を行うこととした。

# (ア) 学級活動における、児童生徒への指導

年度当初に実施した町内 教職員への意識調査から、 家庭学習の手引きを周がいるのもりであるがう。 しているつもりであるがう。 被底はしていないというきた。 状が浮かび上がってきた。 また、家庭学習の手引きを どのように使って指導すればよいのか、という意見も 聞こえてきた。

そこで、本研究所においては、児童生徒が、家庭学習の手引きを活用するという意識を高めることをねらい、学級活動の例を小学校低・中・高、中学校で作成し、町内全ての学校で実践した。

単発的な取組に終わることなく、集団の中で自己を 高めるという雰囲気づくり、 継続的な指導が必要である ことは言うまでもない。



【資料4 学級活動における指導例(小学校高学年)】

#### (イ) 参観日・学級懇談等における家庭への啓発

昨年度は、家庭学習の手引きを配付するだけにとどまり、その活用状況の確認までは至っていない。手引きの内容を一目で理解してもらうために研究所通信を添えてリーフレッ

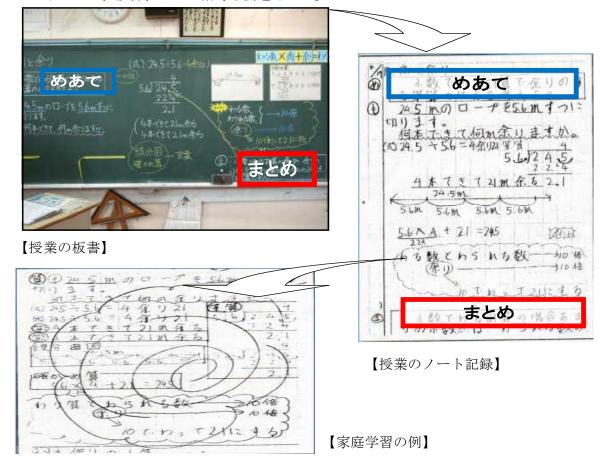
トを配付しある程度の周知をすることはできたと考える。今年度はさらに手引きの活用を 進める必要がある。

そこで、より広く手引きの内容を理解してもらい、家庭での実践に移してもらうために、 保護者と直接話がもてる参観日や学級懇談等でも手引きを話の内容とし、各家庭での活用 を促した。



(ウ) 見通しをもたせ、計画的に家庭学習に取り組ませるために

家庭学習の習慣を確立することに加え、児童生徒が内容を整理し、ポイントを絞った学習に取り組むことでその効果が上がり、学力向上につながる。家庭学習のポイントを絞らせるために、板書、ノート指導を関連させた。



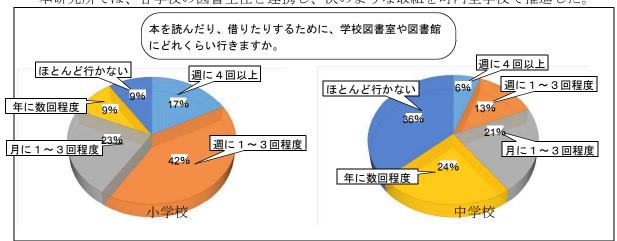
授業のノート記録を見ると、めあてとまとめがはっきりとしており、自分の考えや友だ ちの考えなど学習の過程を振り返ることができる。このようなノート記録を残すためには、 授業モデルに沿った授業実践(板書→ノート→家庭学習)を継続する必要がある。授業と 家庭学習がリンクしていくような指導の流れをつくり、見通しをもった計画的な家庭学習 が進められるようにした。

# (2) 読書活動の充実

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくために不可欠なものである。

読書が子どもたちの成長にとって不可欠であることは明白であり、学力の向上を側面から支えたり、豊かな人間性を育てたりするために、読書を推進していかなければならない。アンケートの結果によると、学年が上がるにつれ、図書室や図書館に行く児童生徒が少なくなるということが分かった。読書冊数、読書時間等の状況も学年が上がるにつれて少なくなるという結果が出ている。学年が上がるにつれて、ページ数や文字数の多い本を読んだり、家庭学習の取組などで、読書の時間が確保しにくいという状況は想像できる。しかし、年に数回程度やほとんど行かない生徒もいることは気にかかる。本町の「本が好きになる、読書の面白さを感じる」児童生徒を増やしたいという考えを推進するために積極的、継続的な取り組みが必要となる。

本研究所では、各学校の図書主任と連携し、次のような取組を町内全学校で推進した。



- ① 三股町内の全ての小中学校の読書量を合わせて、年間10万冊を目指す。
  - 共通の掲示物を各学校の図書室に貼る。
  - 年間で1人40冊が目標。
- ② 親子読書の日を設定する。
- ③ 読書貯金に取り組む。

【図書主任会における決定事項】

# (3) 教育課程の工夫

基礎的・基本的な内容の定着を図るためには、既習事項の確実な定着が必要である。各学校において、朝の時間に習熟の時間(学校により名称は異なる)を設け、既習事項の確実な定着を図った。また、小中連携という視点から、中学校入学までにこれだけは小学校期間で身に付けておいてほしいという教科内容を中学校に整理して示してもらい、「ローマ字」や「漢字」、「計算」などを計画的に取り入れることにした。

# VII 研究の成果と課題

# 1 研究の成果

- 学力向上に向けた基本的な授業モデルを作成し、授業研究会や授業参観、授業評価を行うことで、教師の授業改善の意識を高めることができた。
- 家庭学習の手引きをもとにした児童・生徒への指導や保護者への啓発を行い、学校での学習と家庭学習のつながりの重要性を確認したことで、以前に比べて自主学習の充実が図られた。
- 5 つの研究内容についての小中連携の協議の場を設け、共通実践事項を決定したことで、授業モデルの推進、学習規律の徹底や読書活動の充実など研究の広がりと深化がなされ、各学校の具体的な取組へとつながった。
- 町教育研究会夏季研修会や秋季研修会、教務主任会、研究主任会、図書主任会を通して研究 内容についての共通理解を深め、町全体で研究に取り組む意識を高めることができた。

# 2 研究の課題

- 授業モデルの推進や学習規律の徹底、家庭学習の充実について、継続的に見届けや評価を行い、研究を進める必要がある。
- 本研究を推進するために、各学校の研究との連携の在り方や次年度の研究公開に向けた町全体の研究の進め方をさらに工夫する必要がある。
- 家庭学習や読書活動の充実のために、今後も家庭の協力が得られるように繰り返し保護者へ 啓発していく必要がある。

# ◇ 参考文献

- 「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」(平成20年8月/文部科学省)
- ・秋田県大仙市大曲小学校HP「学びのきほん」(大仙市大曲小学校)
- ·第二次宮崎県教育振興基本計画 (宮崎県教育委員会)
- ・みやざき「学びのすすめ」(宮崎県教育委員会)

# ◇ 研究同人

所 長	宮内浩二郎 (三股町教育委員会)	班 長	西川 元 (三股西小学校教諭)
次長	永吉 雅彦 (三股町教育委員会)	研究員	高橋 亮一 (三股小学校 教諭)
副主幹	酒井 昭弘 (三股町教育委員会)	研究員	松田優子(三股小学校教諭)
主査	湯浅かおり(三股町教育委員会)	研究員	福岡茂樹(梶山小学校教諭)
主査	山内まどか(三股町教育委員会)	研究員	黒木 千穂(宮村小学校 教諭)
上 上 指導員	馬場 真吾(三股町教育委員会)	研究員	緒方 宏文(三股西小学校教諭)
主任	渡邉 政彦(長田小学校 教諭)	研究員	林耕治(三股中学校教諭)
班長	外山 繁 (勝岡小学校 教諭)	研究員	福永 悦子(三股中学校 教諭)